

げんき

八王子センター元気
TEL & FAX
042-627-9179
八王子市大横町11-35

センター元気

新年度体制

八王子センター元気の新年度体制が決まりました。鹿又ワカ代表が退任し、後任に狩野雄一郎氏が就任されました。新体制は次の通り承認されました。

一・役職

(代表) 狩野雄一郎

(副代表) 伊藤涼子

須田 博

山口幸男

(会計) 伊藤玲子

西岡博子

(事務局) 山口幸男

大澤清志

(監事) 柴田忠寛

亀山良三

(相談役)

鹿又ワカ

富永哲夫

一、業務分担

(統括) 狩野雄一郎

(市役所関連連絡調整)

狩野雄一郎

(市民活動支援センター)

須田 博

山口幸男

(団塊世代地域支援デスク)

狩野雄一郎

(八老連) 伊藤玲子

西岡博子

(ボランティアセンター)

山口幸男

柴田忠寛

代表就任の御挨拶

三月四日の定例会において、代表に選任されました。狩野雄一郎です。

本センターは今年で設立七年目を迎えます。



狩野新代表

平成十九年春、鹿又さんが代表に就任されて以来二年間で、コーディネーター数、講師登録者数、幹旋成約件数とも飛躍的に増加し、ボランティア活動も一段と活発になってまいりました。

一方、八王子市も年毎に高齢化率は高まり、本年度中に20%を超えるものと予測されます。元気な高齢者もますます増えますが、長年培った経験と豊富な知識や特技を生かして社会参加をする活動拠点として「八王子センター元気」が果たす役割はますます重要なものとなってくるものと確信します。

「八王子センター元気」

は、市から「高齢者活動コーディネーター」の運営業務を受託している団体ですが、法人格を持たない任意団体として運営されて

います。高齢者の社会参加の活動に関わりたい、ボランティアで社会のお役に立ちたいという「志」を持つて集まった人達による「有志団体」なのです。この「有志団体」はチームワークとお互いの信頼関係だけで結ばれている団体です。お互いの自主性を尊重し、協力し合って、楽しく、しかも責任を持って活動していくことが利用者の信頼と期待にこたえることになると考えます。

重ねて皆様のご協力とお力添えをお願い致します。

代表退任の御挨拶

独立初代の代表就任という重責を担って二年、任期を大過なく全うすることができましたことを心から感謝申し上げます。献身的にご協力いただいた役員の皆様はじめ、温かいご指導をいただきました関係機関と会員の皆様にあためて御礼申し上げます。有り難うございました。



鹿又前代表

おかげさまで、高齢者の社会参加事業の推進を目指しての様々な取り組みは、シニアパワー全開の活動実績として実りました。登録コーディネーター76名全員が、力と技を結集した活動が、センター元気の認知度を拡大し業績が進展した成果を挙げることができたのだと思います。

さらに今後は未開拓分野である地域活動への取り組みが期待されています。高齢社会では地域の互助活動や健康長寿の担い手の人材育成とその活躍が求められているのを痛感致しました。今後は私も相談役として皆様のご協力を賜りながら期待にこたえる活動に邁進したいと思しますので、よろしくお願い申し上げます。

講師紹介シリーズ 第七回

手造りの会

見たい、見せたい、

毎月最終の金曜日、十人前後の女性が、大横福祉センター内「八王子センター元氣」の隣「サロンげんき」に集まります。「手造りの会」の集まりです。

チャイナペイントに魅せ

られたのが始まりでした。こんな素晴らしいものを見たい、見せたい、作りたいというのが「手造りの会」の動機付けです。新しい講師誕生への期待もありました。



今年 は 丑 年

第一回は、平成十九年十月に、動機付けとなった「八王子センター元氣」の登録講師、中雄久恵さんのチャイナペイントから始めました。その後のテーマと講師は次の通りです。

平成十九年十一月

くるみ絵

鈴木郁子

平成一九年十二月

チャイナペイント

中雄久恵

平成二十年二月

くるみ絵

鈴木郁子

平成二十年三月～四月

パッチワーク 荒かつ江

平成二十年五月～六月

布草履 井出寿美恵

平成二十年七月～九月

くるみ絵

鈴木郁子

平成二十年十月～十二月

パッチワーク(手提げ袋)

荒かつ江

平成二十一年二月



ありがとう 子年さん

折り紙

舛田初恵

平成二十一年三月

根付け

鈴木郁子

このあとは、それぞれのテーマのポイントをご説明します。(文責 柴田)

くるみ絵

日本古来の羽子板に応用された押し絵の技法を現代風にアレンジしたものがくるみ絵です。

押し絵は、綿を芯にして中に入れ厚紙のパーツにのせ、作品によって綿で高低をつけて、縮緬や西陣織の布で型紙通りに、のり、コテを使用して包み、リボン、ビーズ等で仕上げたものです。

むかし若もの ふれあい作品展

主催 八王子センター元氣

1. 日時: 平成21年12月12日(土)、13日(日)
午前10時～午後5時

2. 場所: いちょうホール 展示室 1、2

3. 内容:

市内20以上の高齢者施設の利用者・入居者の作品を展示し、これを鑑賞しながら、出品者・ご家族・スタッフ・指導者等、関心ある人々と交流しませんか。

くるみ絵は、綿の代わりにスポンジ台紙で、3ミリから7ミリの種類のものを作品によって使い分け、ふつくと、厚みを持たせ、独特な手法で作られます。和紙(一越縮緬のように出来ているものもある)や布(縮緬、西陣織り、友禅柄、羽二重等)を使い、糸も針も使わずノリだけで、一つ一つのパーツを型紙の絵に合わせてくるみ、組み合わせる立体的な絵柄の作品を作り上げます。

種類も豊富で、手軽に作ることが出来る、初心者シリーズから、わらべ唄、心の詩、歌舞伎、縁起物、四季折々の物、干支等々、数多くあり、和室・洋室にとられずに、作品を飾ることが出来ます。外国の方々にも人気があり、お土産に大変喜ばれております。和紙の温かみを感じ人の心を和ませてくれるのが、くるみ絵です。(鈴木郁子)

第五回 講師・施設懇談会

参加者百三十名！ 過去最高！

今後の運営方向

平成二十年十一月十九日（水）、二十一日（金）の両日、恒例の講師・施設懇談会が開催されました。参加者は百三十名、昨年の九十九名に対し三十一名の大幅増加となり、過去最高を記録しました。しかしながら、情報交換では、八王子センター元氣に対する要望と利用方法に関する質問とが交錯し、出席した講師にとって役立つものであったかどうか課題を残す結果となりました。

さまざまな情報交換の場

第一部は、二階「竹の間」で午後一時三十分始まり、鹿又代表の挨拶のあと、司会者による、来賓、高齢者施設参加者および地域包括支援センター参加者の紹介と続き、最後に参加講師の自己紹介が行われました。

第二部は、三階「末広の間」に移り、地域別に分けられた十人前後の円テーブルで、情報交換が行われました。一日目はハテーブル、二日目は六テーブルが準備

されました。約二時間にわたる熱心な情報交換の後、各テーブルの代表から短いとりまとめが発表されました。主な内容は次の通りでした（順不同）。

- 一、講師について
- ・プロを期待している。技術が下手では困る。
- ・講師からセンターへの報告が必要ではないか。
- ・コーディネーター研修で技術を披露したい。
- ・施設側の配慮も分かっているほしい。
- ・ボランティアは楽しくな

ければ続かない。

・講師間の情報交流が必要。

・ボランティア・ポイント制へ参加してほしい。

・踏み込み過ぎのケースがある。

二、施設について

・ボランティア・ポイント制に加入してほしい。

・利用者の情報を事前に教えてほしい。

・施設の評判を利用者にしないほしい。

三、センター元氣について

・講師のPR、センター元氣のPRをしてほしい。

・老人会との協働をしてほしい。



・センター元氣の利用方法を知りたい。

・契約期間を事前に決めてはどうか。

最後に来賓の皆様からのひとことをいただき、終了となりました。

今後に向けて（反省会）

その後のコーディネーターによる反省会で次のような意見が出されました。

・案内する施設を絞ってはどうか。

・講師とコーディネーターとの情報交換に絞ってはどうか。（文責 柴田）

傾聴ボランティアスキルアップ講座開催

平成二十年十二月十七日（水）午後一時三十分から、大横福祉センター「末広の間」で、傾聴ボランティアスキルアップ講座が開催されました。

傾聴活動の結果「認知症」対応の必要性が痛感されたため、認定カウンセラー伊藤憲彦氏が、傾聴ボラン

オトパも満八歳

平成二十一年三月二十八日（土）、労政会館で開かれたNPO法人 八王子市民活動協議会主催の『お父さんお帰りなさいパーティー』（オトパ）も今年で八回目を迎えました。当日の紹介団体も三十団体となり、年々盛況さを増してきました。八王子センター元氣の展示紹介も、たくさんの方々の協力のおかげで、とどこおりなく完了しました。有り難うございました。（文責 須田）

ティア養成講座の修了者を対象に、約三時間にわたり講演されました。

認知症の基本的特徴、傾聴の際の留意事項、対応例、事例演習、そして質疑応答と、活発な議論が行われ、日頃の悩みを解消する絶好の機会となりました。

（文責 柴田）

高齢者施設でのセンター元気の活動は多岐にわたりますが、やはりお祝いに関係することが多いようです。お誕生会、クリスマス、年末年始のお祝い、初詣、敬老の日、等々。今回は、こうしたお祝いの活動をいくつかご報告致します。

初詣（車椅子介助）

介護老人保健施設「ゆうむ」（西寺方町）の新春恒例行事になっている「初詣ドライブ」は、今年も一月七日（水）に行われ、センター元気から十名のボランティアがお手伝いをしました。バス三台に分乗した利用者十七名の方々と、職員と一緒に、乗降時の介助、車内での話し相手、下車してからの付き添い、車椅子介助をすべてマンツーマンで行うのが、ボランティアの役割です。滅多に外出する機会がない入寮者の方々が、移りゆく街並みを車窓から食い入るように見つめてお話しされ、「多賀神社」（元本郷町）に参拝された後の晴れやかな顔を見て、お手伝いできて本当によかつ

たと思う瞬間です。



初詣（車椅子介助）

初詣に続いて、四月の「夕焼け小焼けの里公園」、六月の「わくわくビレッジ」、八月の「夢美術館見学」などのバスドライブでの行事に欠かせないボランティア付き添い介助をすべて八王子センター元気がお手伝いしています。（狩野 記）

お誕生会

「ファミリーイン堀之内デイスービスセンター」の



お誕生会

十二月のお誕生会が、十二月八日午後二時から行われました。今回は五姫会をご紹介しました。テーマは「お誕生会を華やかにしよう」ということで、バラティに富んだ出し物となりました。踊り、南京玉すだれ、マジック、ロックソーランと大変賑やかな時間を過ごしました。最後にお誕生日の皆さんと握手をして、お互いに祝福していました。コーディネーションの楽しさを痛感致しました。

（渡辺重 記）

その他にも、「ハynes憩いの丘」（初詣）、「ぐらんぱぐらんま」（クリスマス）

編集員の記

「福」は「ふくろう」に通ず。

江戸時代に、子供が抱瘡にかかり、魔よけのため「赤ミミズク」玩具を与え使われたものに、東京雑司ヶ谷の鬼子母神の「すすきミミズク」があります。病気の母を孝行娘が助けたため作って売り薬代にし母の病気を治したという故事に由来し、今でも玩具に伝承されています。日本各地には、愛知県鳳来町「ススキの伝法僧」、北海道上川郡新得区「ススキみずく」、広島県佐伯郡吉和地区「冠みずく」、同瀬野「美々津久」などがあります。「ふくろう」は「福を呼ぶ」といわれ縁起ものであり、「不苦労」、「苦労せず」とも言われています。世界各地には、観光地の土産や、置物、切手など多種存在しています。！！（田代）

福祉の現状

日本の福祉行政は欧州に比べまだまだの感があります。老人ホーム・老人病院・ケア付ケアホーム等、いろいろな情報が氾濫している日本の現状をみると、お年寄り自身が楽しく自分の“生”を謳歌しているとは思われません。経済的にも貧困と格差は深刻です。全国で自殺者数は“三万二千人”、そのうち1/4の人が高齢者。交通事故死を上回る数で、ゆゆしき問題ではないでしょうか。いかに窮乏生活を送っている高齢者が多いことか！！この諸問題・課題の解決には行政、行政を動かすのは世論、世論を動かすには我々の運動で。地域と密着した運動は必ず世論の先鋒となり、やがて高齢者にも“ふく”がおとづれるであろう（鈴木恵）

マス）、「多摩特養老人ホーム」（クリスマス）、「真秀の里」（クリスマス）、

「シルバービレッジ中央」（クリスマス）等で喜んでいただきました。